

平成 16 年度のサケ来遊状況 (11 月末版)

独立行政法人 さけ・ます資源管理センター

1 . サケ来遊数

平成 16 年 11 月末までの全国のサケ来遊数は、沿岸漁獲数 6,643 万尾、河川捕獲数 658 万尾、計 7,301 万尾(対過去 5 年同期平均:135%)に達しています(図 1)。

このうち、北海道域は 6,051 万尾(沿岸漁獲数 5,556 万尾、河川捕獲数 495 万尾)、本州太平洋域は 1,141 万尾(沿岸漁獲数 1,021 万尾、河川捕獲数 120 万尾)、本州日本海域は 109 万尾(沿岸漁獲数 66 万尾、河川捕獲数 43 万尾)であり、過去 5 年間同期との比較では、北海道域は昨年とほぼ並ぶ非常に高い水準(対過去 5 年同期平均:136%)、本州太平洋は昨年をやや上回るペース(対過去 5 年同期平均:126%)、本州日本海は平成 14(2002)年を大きく上回るペース(対過去 5 年同期平均:191%)で推移しています。(図 2、3、4)。

2 . 年級群別(生まれ年別)の来遊状況

11 月中旬までに当センター各支所が北海道域の河川で捕獲されたサケを対象として行った資源モニタリングの結果によると、5 年魚である平成 11(1999)年級群が過去最大であった平成 2(1990)年級群を上回る非常に大きな資源であるとともに、4 年魚である平成 12(2000)年級群の資源も小さくはないと推定され、これら 2 つの年級群が昨年と今年の豊漁をもたらしたと言えます(図 5-(1))。

9 月末版の「平成 16 年度のサケ来遊状況」でお知らせした「4 年魚が多ければ年級群の総来遊数が多く、総来遊数が多ければ 5 年魚も多い」という傾向は、予想を若干上回ったものの、今年も概ね当てはまったと言って良いようです(図 5-(2))。

一方、本州太平洋域でも、久し振りに 1,000 万尾台半ばの来遊が見込まれ、平成 11(1999)年級群以降、徐々にではありますが来遊数が上向きつつある様子が窺えます。特に本来の盛期である後期群が増加したことは、今後の資源回復への明るい兆しであることが期待されます(図 5-(3))。

また、本州日本海域では、平成年代に入って最多の来遊数となりましたが、4 年魚である平成 12(2000)年級群が、この地域としては非常に大きな資源であるとともに、3 年魚である平成 13(2001)年級群の資源も小さくはないと推定され、これら 2 つの年級群が今年の豊漁をもたらしたようです(図 5-(4))。

なお、北海道でも日本海が豊漁であることから、平成 12(2000)年級群が放流された平成 13 年(2001)年春季の日本海の広い範囲で稚魚の生残り易い条件が整っていたことが推察されます。

このことを示唆することとして、サケが分布する南辺地域と言える石川県を始めとする本州日本海域の各県試験研究機関によって精力的に行われている標識放流試験によって得られた多くのデータがあります。

この中から、来遊数が多かった平成 10(1998)年級群と平成 12(2000)年級群並びに少なかった平成 9(1997)年級群と平成 11(1999)年級群について、これらの群が放流された平成 10(1998)年から平成 13(2001)年までの春季に再捕された幼魚のサイズと移動に注目すると、移動の様子には大きな差異は認められませんが、沿岸滞留期から沖合移動期にあたると思われる 3月から4月上旬に再捕された幼魚のサイズは、来遊数が多かった2つの年級群に大型のものが多く見られ、以後の良好な生残りに結び付いたのではないかと思われま(図5-(5))。

3. 体サイズ

各地域の沿岸で漁獲されたサケの平均重量は、漁期初めから総じて小振りで推移しており、今年(2001)年の来遊魚の特徴と言えます(図6-(1))。

北海道域沿岸での年齢組成調査の際に得ている魚体測定データを、平成 13 年以降について 別・年齢別に見ると、本年は漁獲の主体である4年魚と5年魚の特に の尾叉長と体重が過去3年間と比較して小さく、肥満度も、太ったサケが多かった昨年と比べると目立って小さく、各沿岸で言われているように痩せたサケが多かったようです(図6-(2))。

そこで、魚体測定データを4年魚と5年魚の成熟度別に見ると、昨年までは、ともに成熟が進むにつれて、(年によって大小はありますが)尾叉長は増加、体重は概ね横ばい、結果として肥満度は、3年とも成熟が進むにつれてほぼ同じくらいの値をたどって減少していくという傾向が見られていましたが、今年については、単に尾叉長や体重が小さいだけでなく、未成熟な段階から肥満度が小さいという過去3年とは異なる様子を見せました(図6-(3))。

一方、河川で捕獲された 4年魚の体サイズは、北海道、本州を問わず、幾分小型でした(図7-(1),(2),(3))。

図-1 全国サケ来遊状況

平成16年（2004年） 11月末

□北海道域 ■本州域

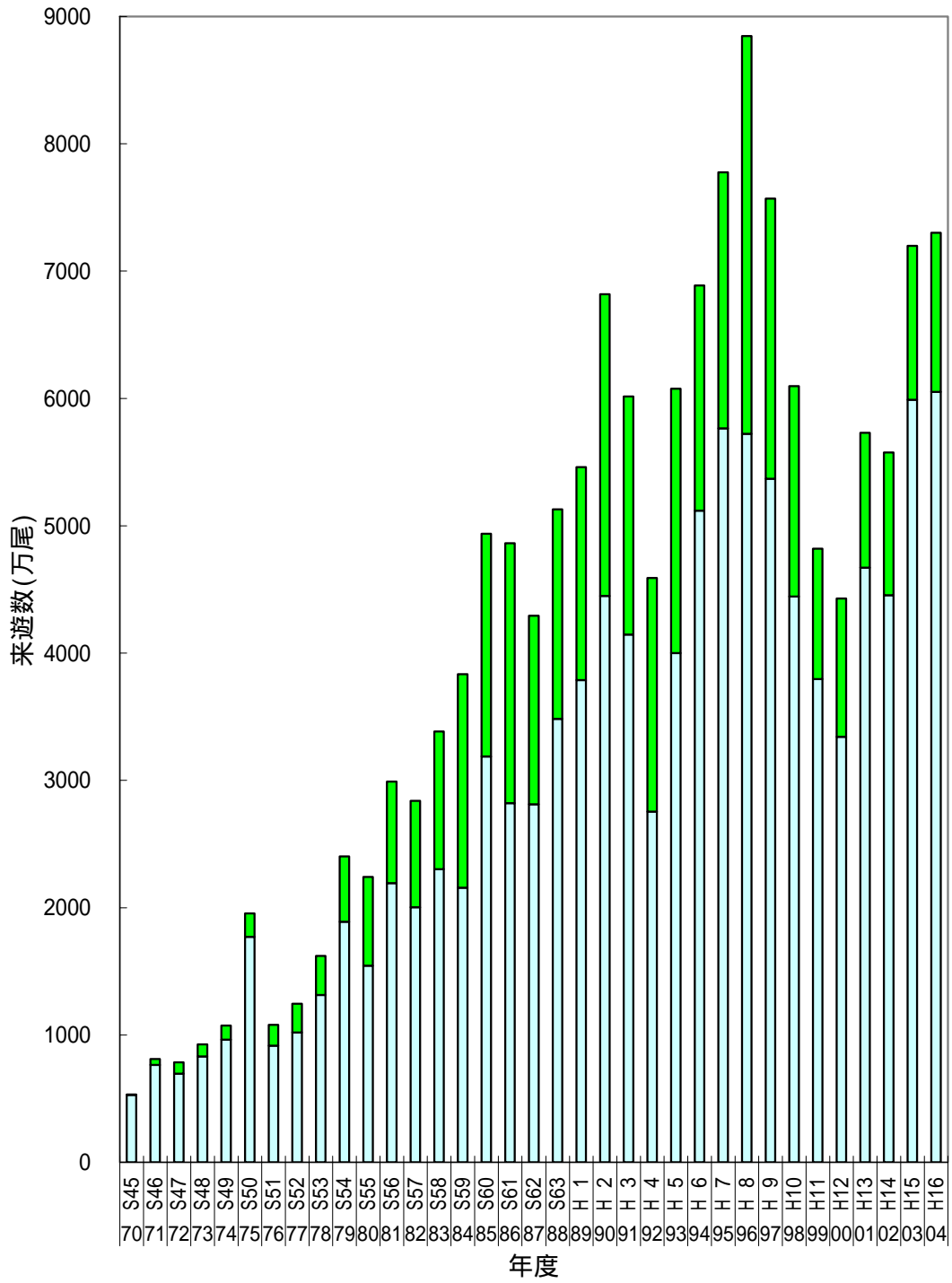


図-2 サケ累積来遊数

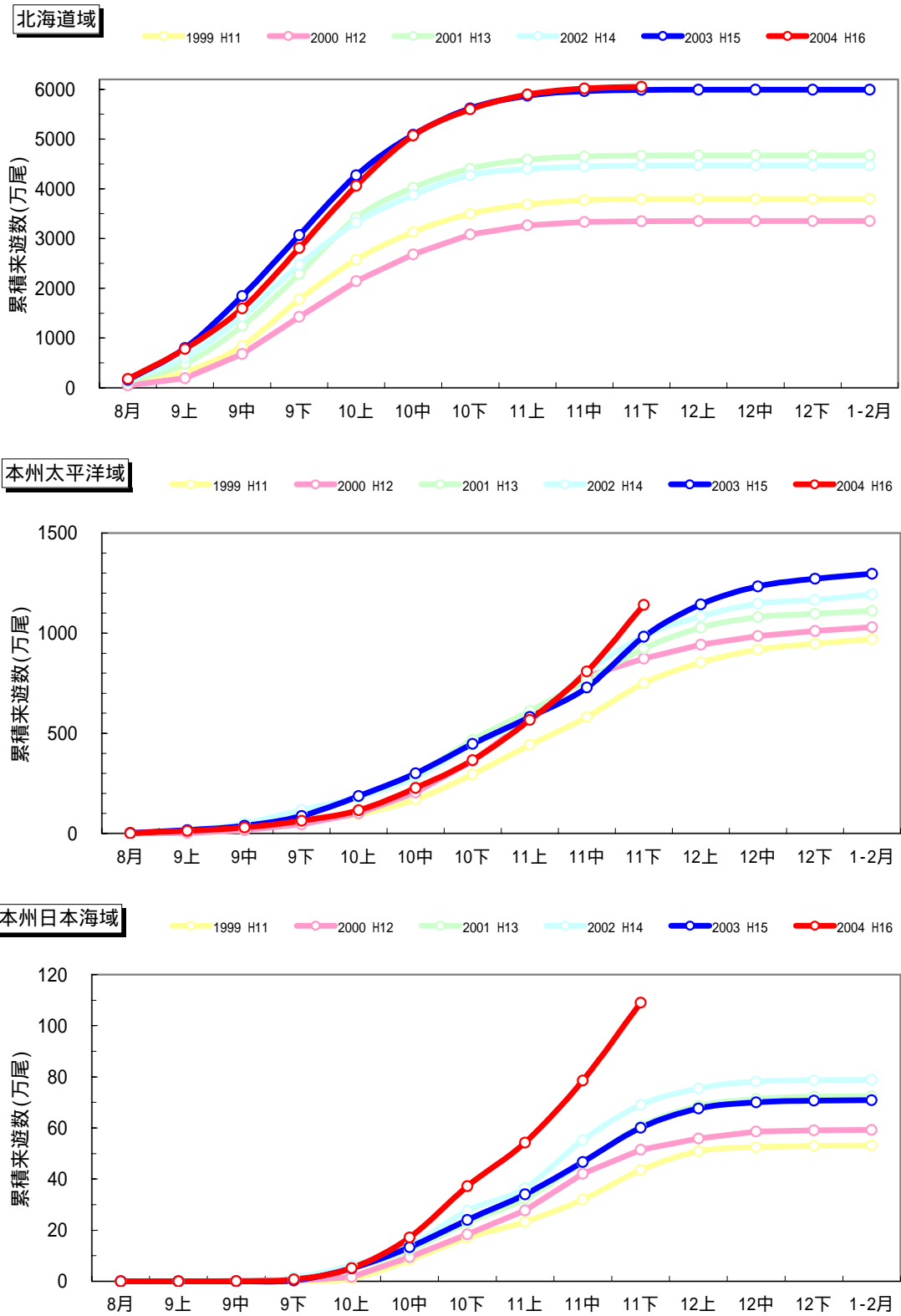
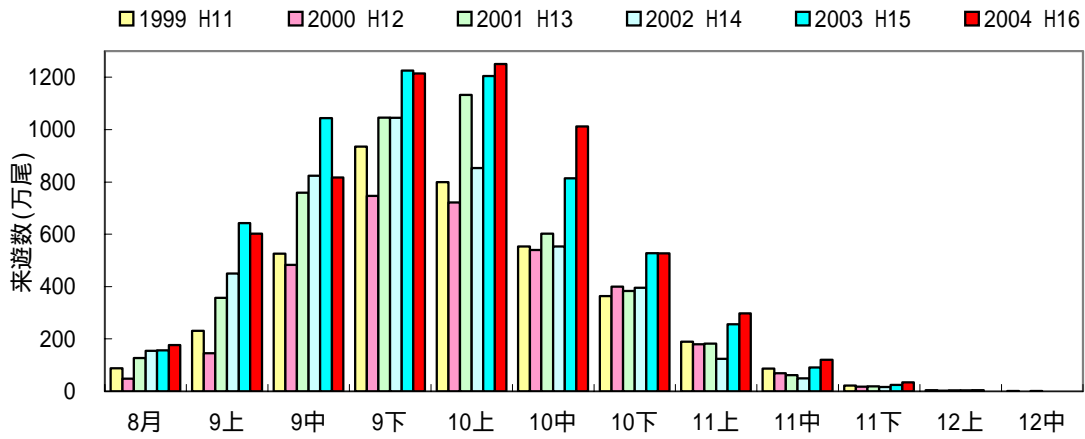


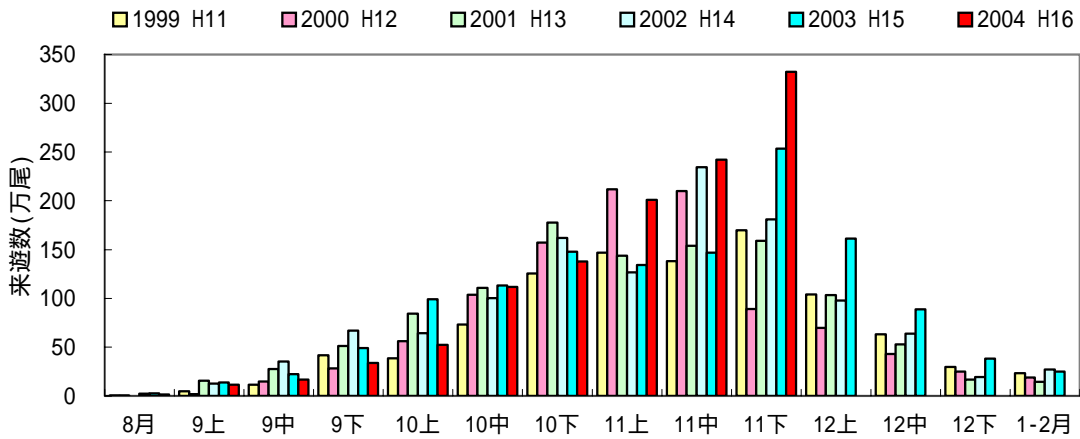
図-3 時期別サケ来遊数

平成16年（2004年） 11月末

北海道域



本州太平洋域



本州日本海域

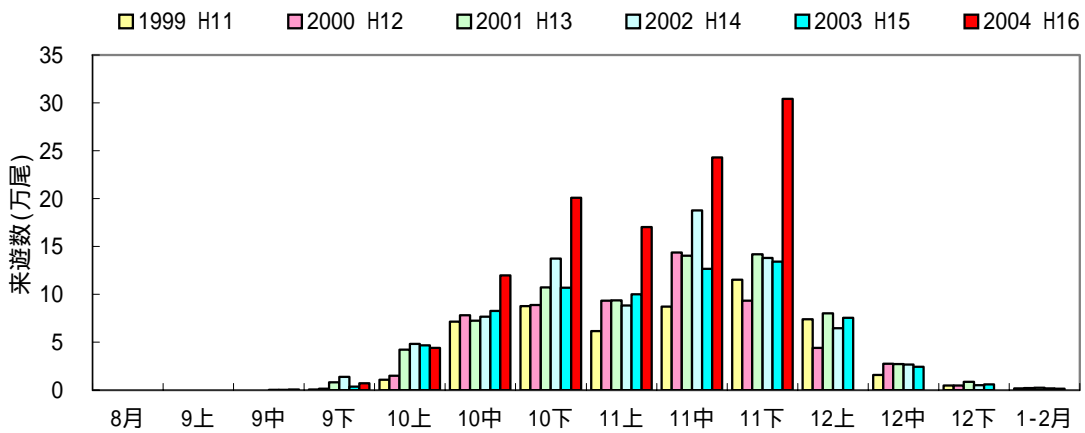
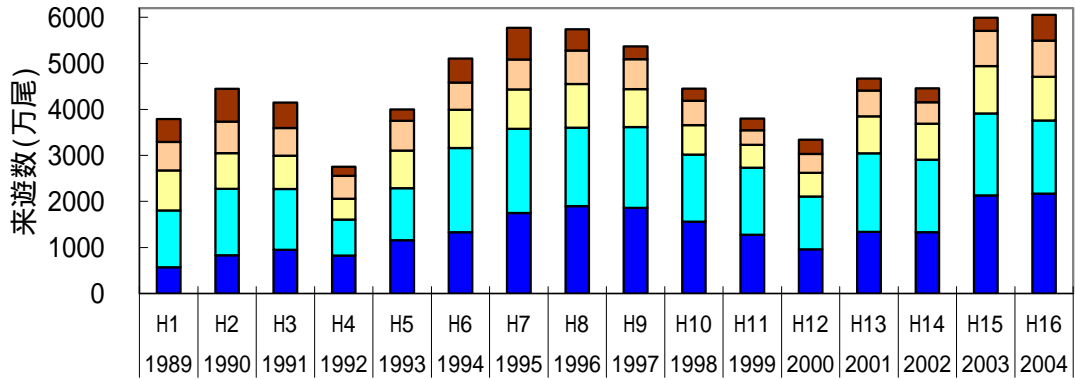


図-4 地域別サケ来遊状況

平成16年（2004年） 11月末

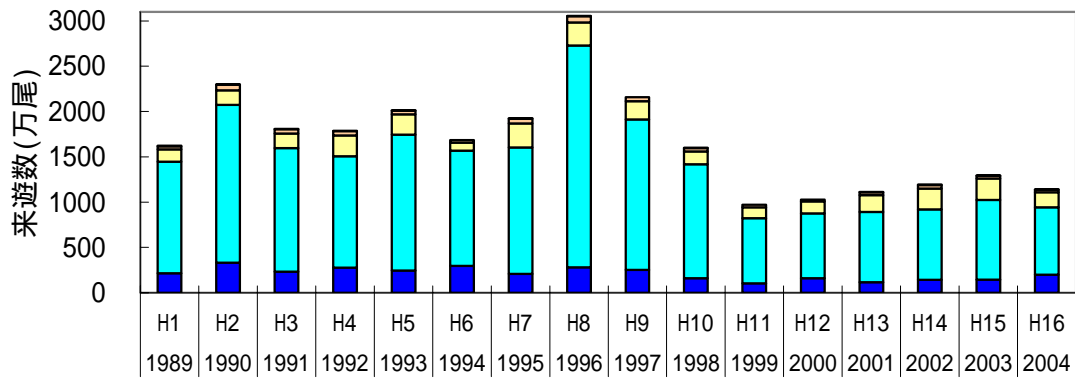
北海道域

■オホーツク海区 ■根室海区 ■えりも以東海区 ■えりも以西海区 ■日本海区



本州太平洋域

■青森県太平洋 ■岩手県 ■宮城県 ■福島県 ■茨城県



本州日本海域

■青森県日本海 ■秋田県 ■山形県 ■新潟県 ■富山県 ■石川県

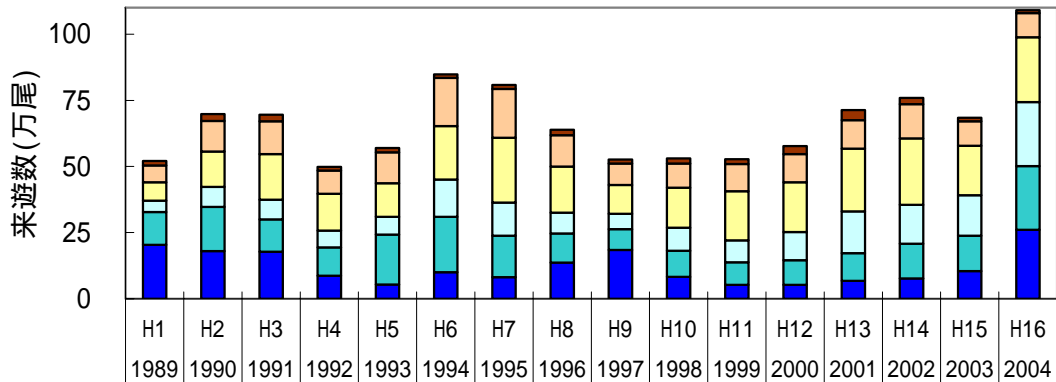


図-5-(1) 北海道域に来遊したサケの年齢組成(速報値)

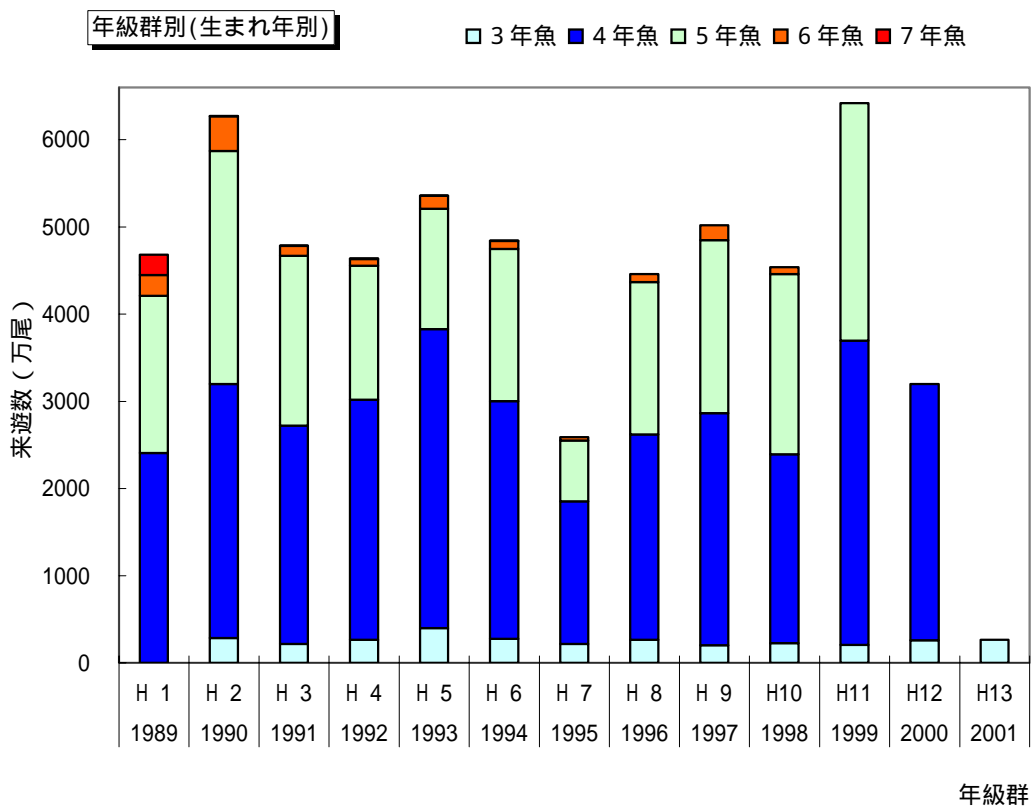
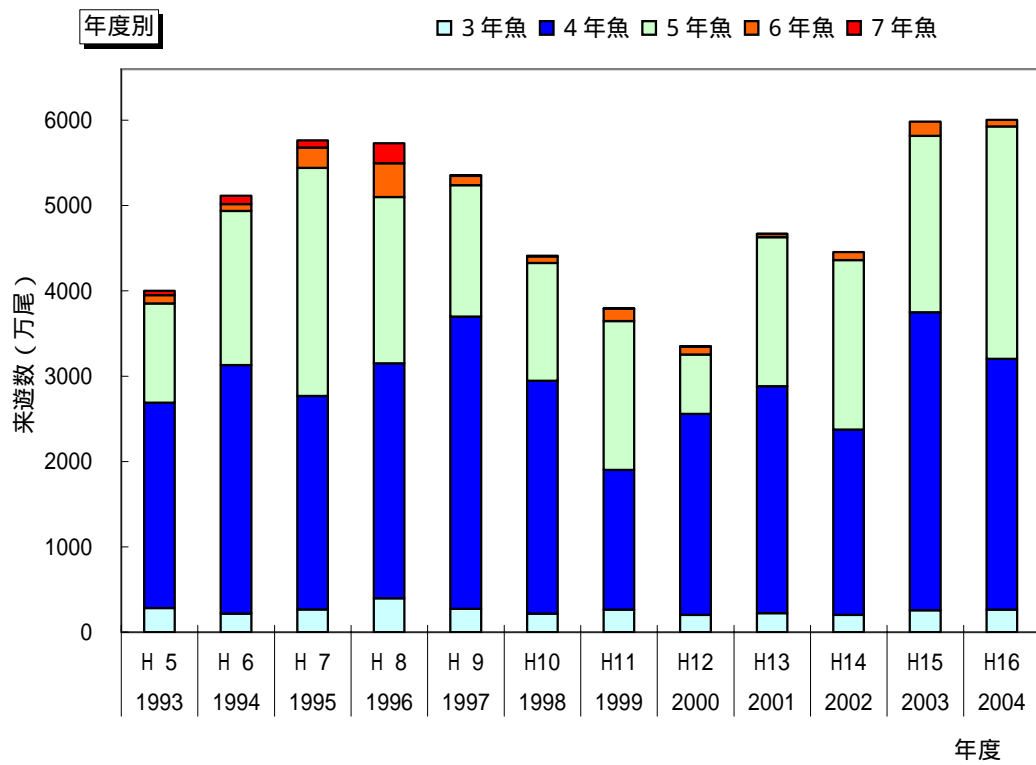


図-5-(2) 若齢魚と高齢魚の来遊数の関係(北海道域：速報値)

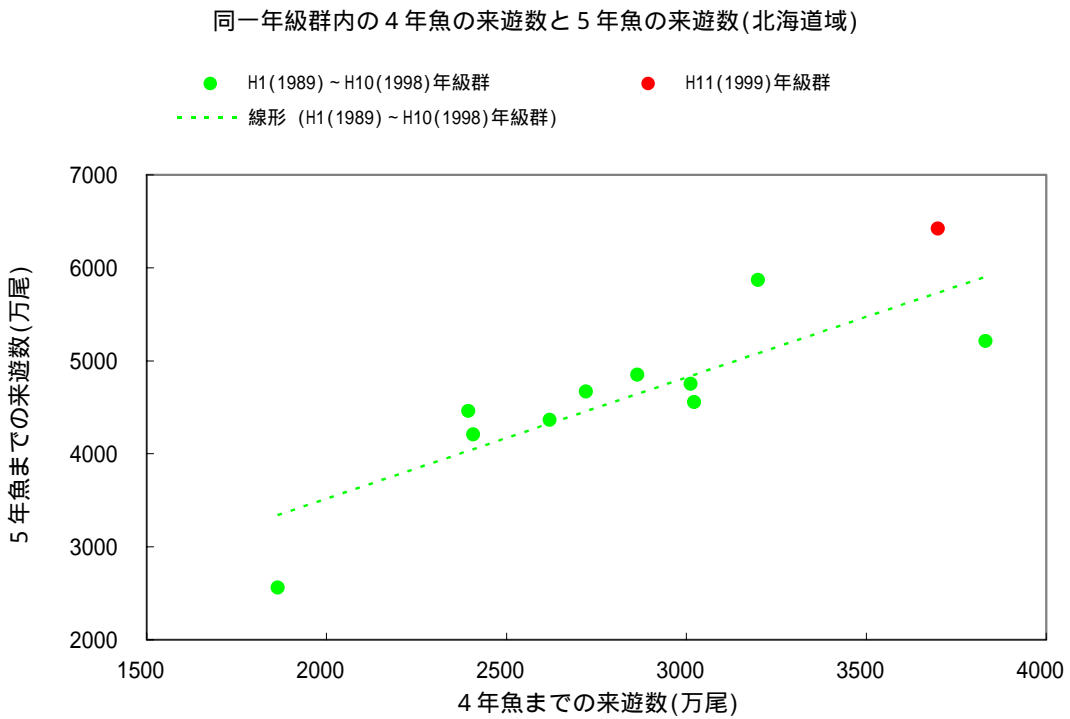
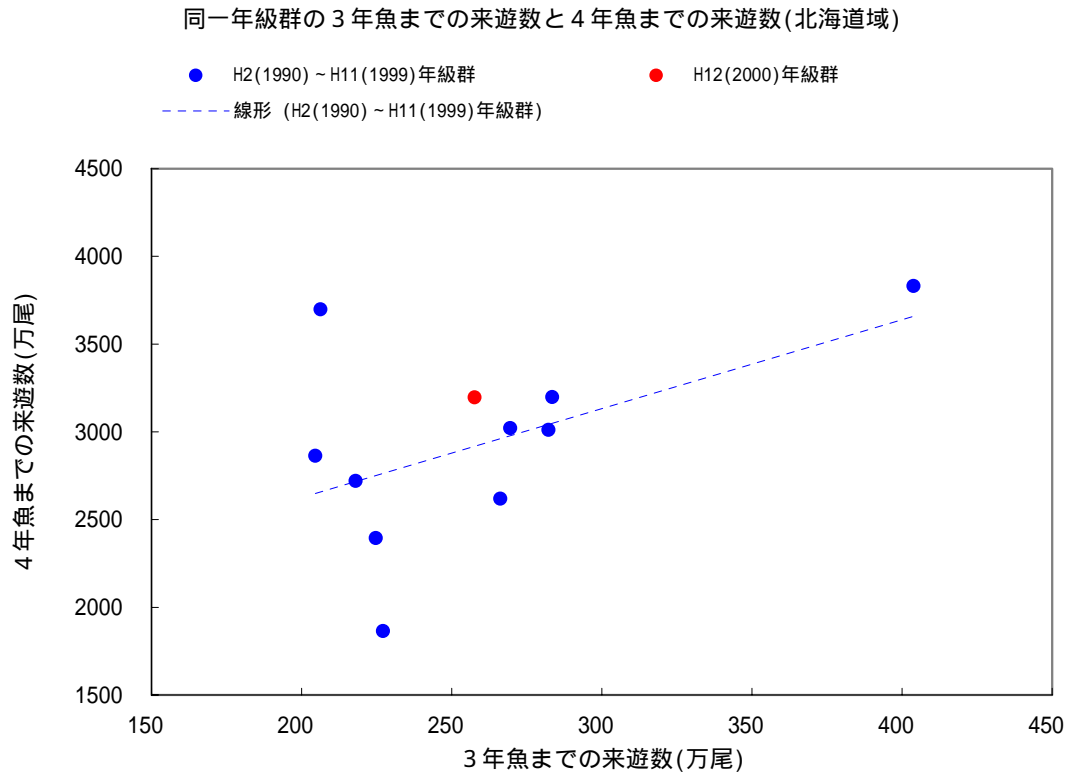


図-5-(3) 本州太平洋域に来遊したサケの年齢組成(推定値)

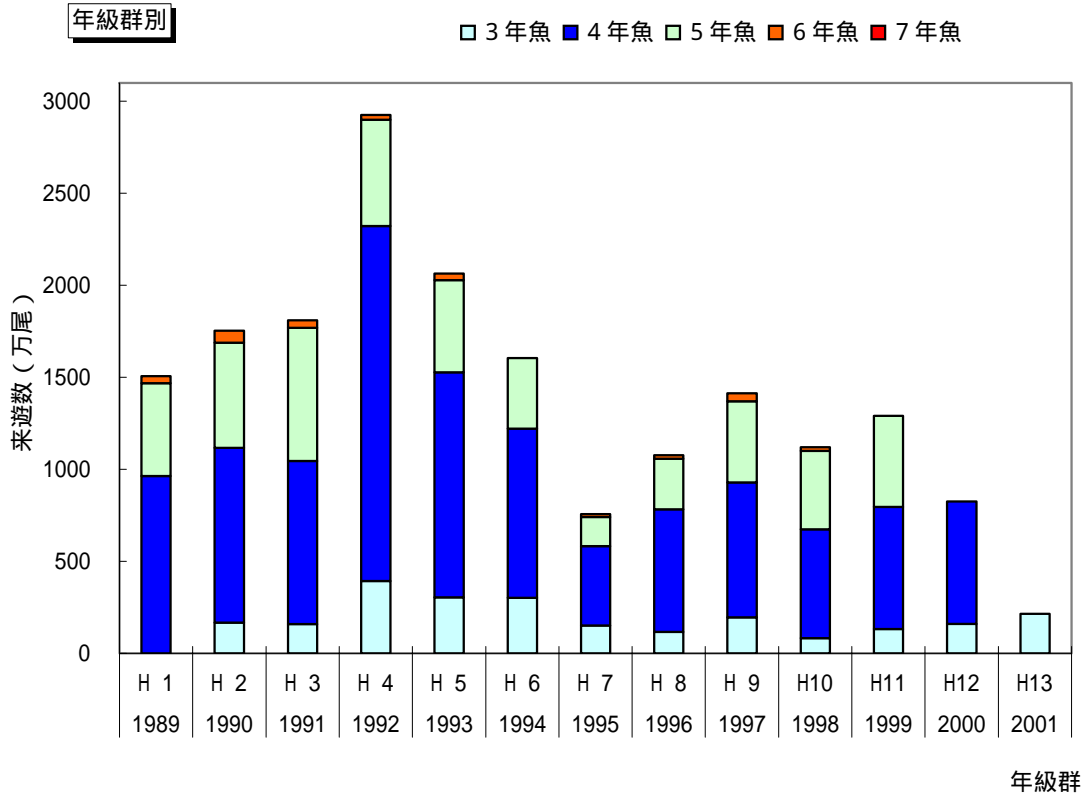
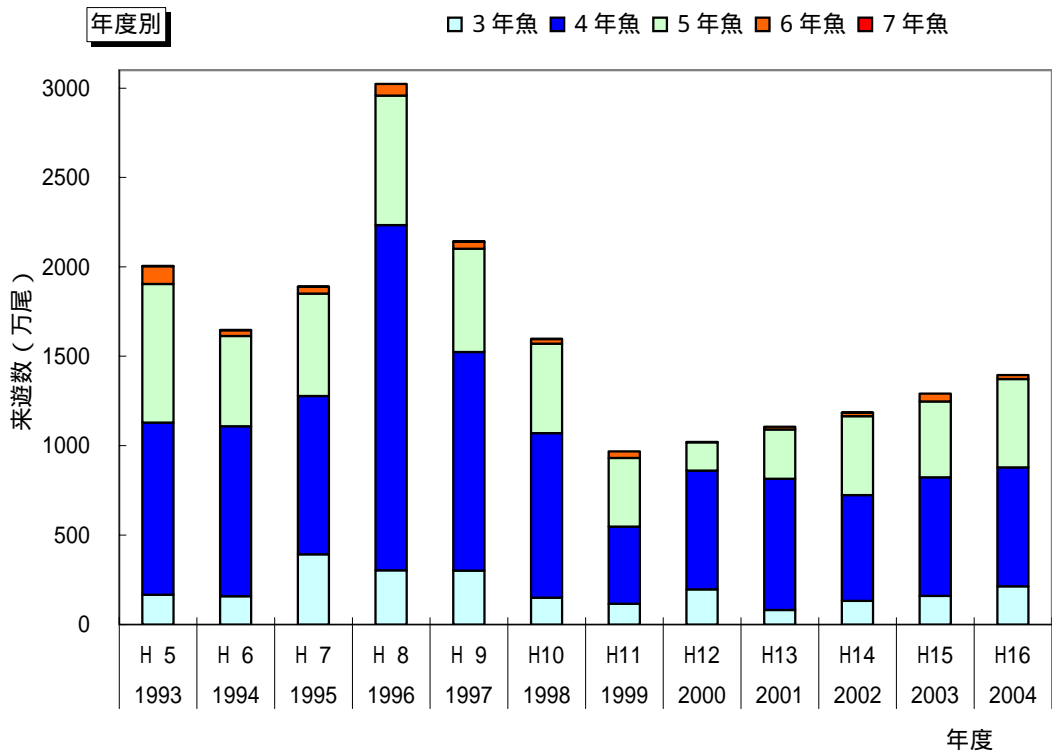


図-5-(4) 本州日本海域に来遊したサケの年齢組成(推定値)

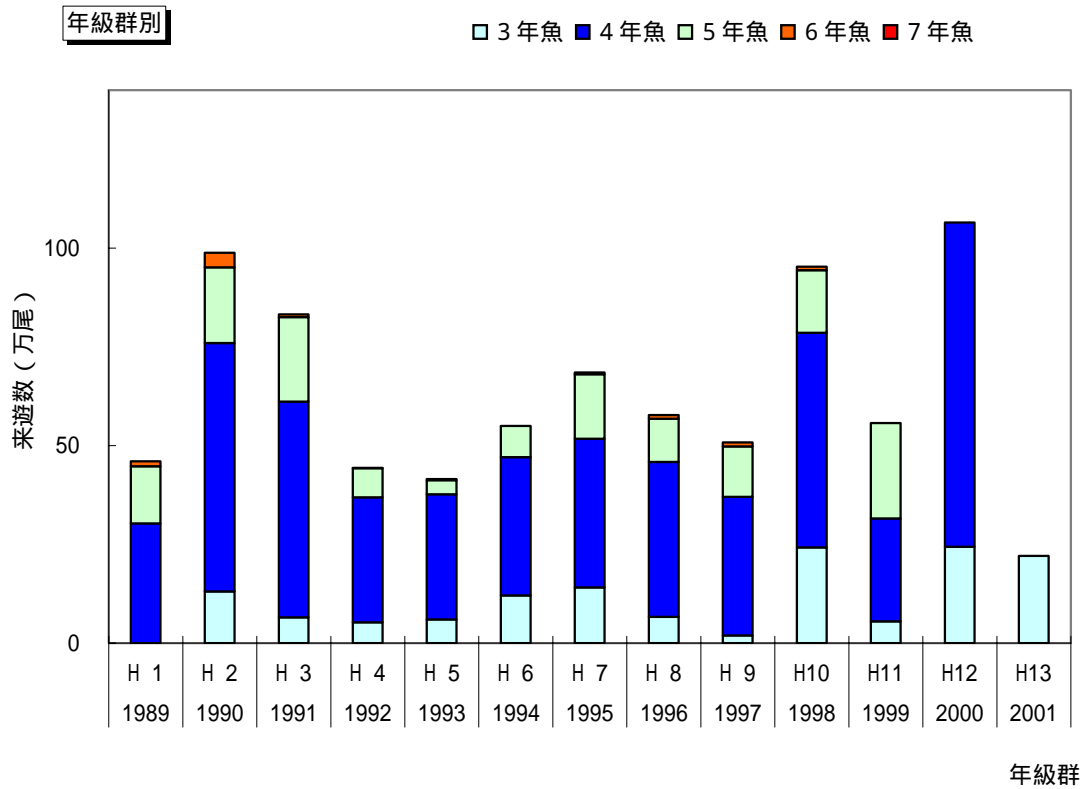
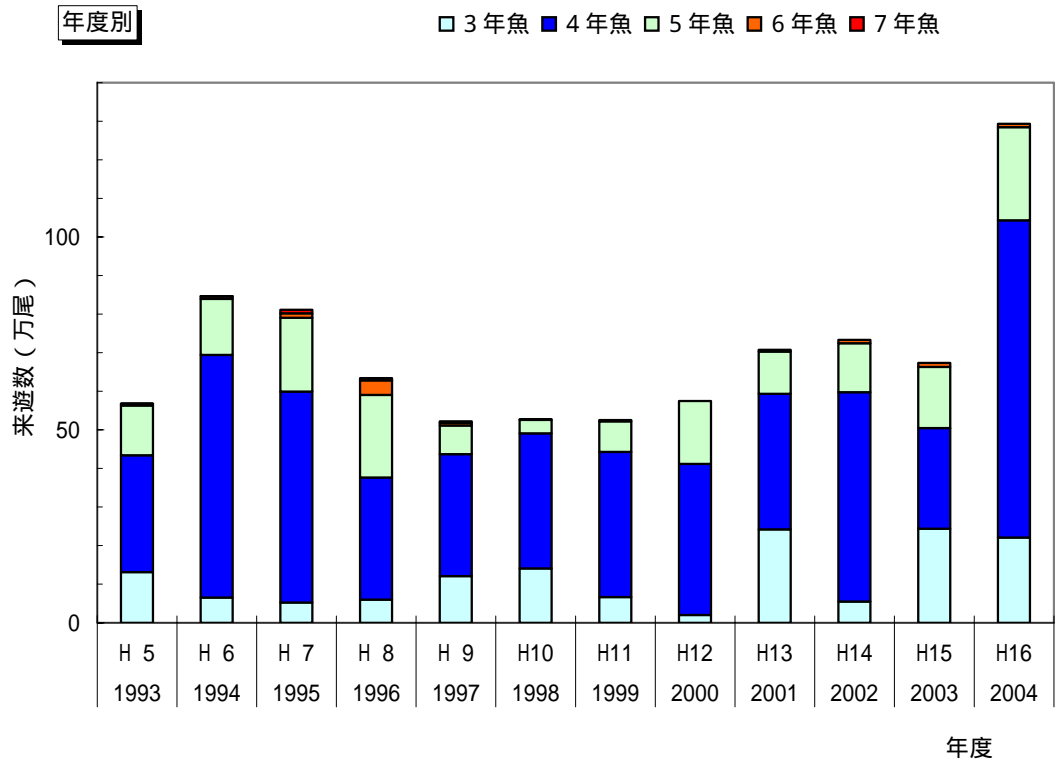


図-5-(5) 1998～2001年春季 本州日本海域での標識放流試験結果

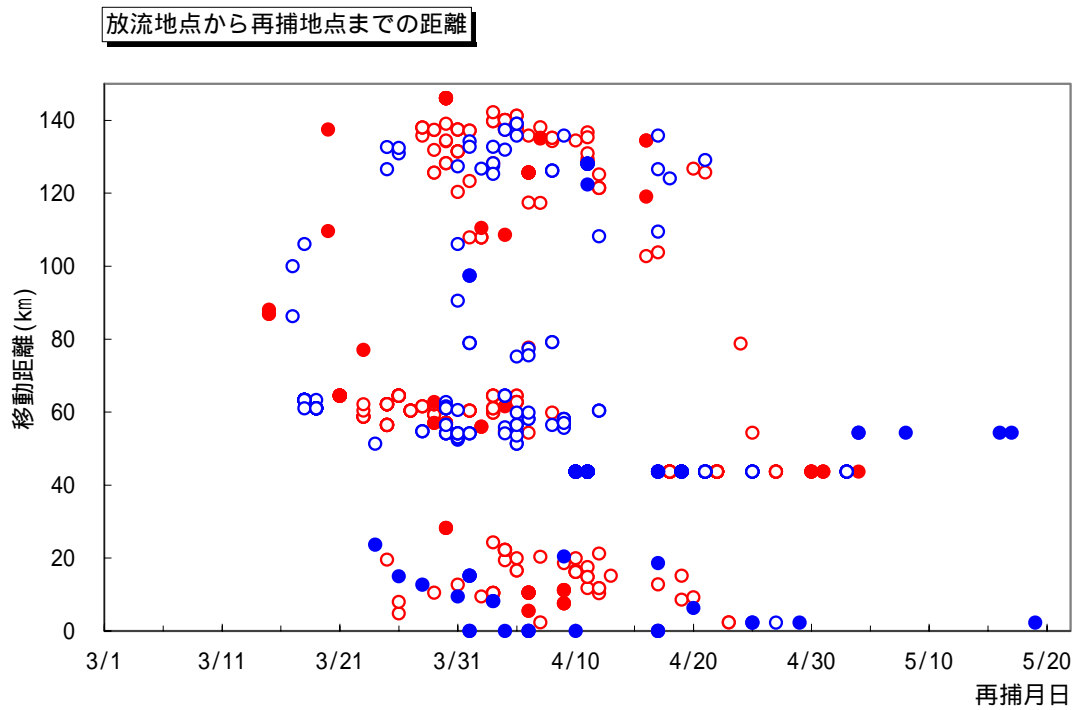
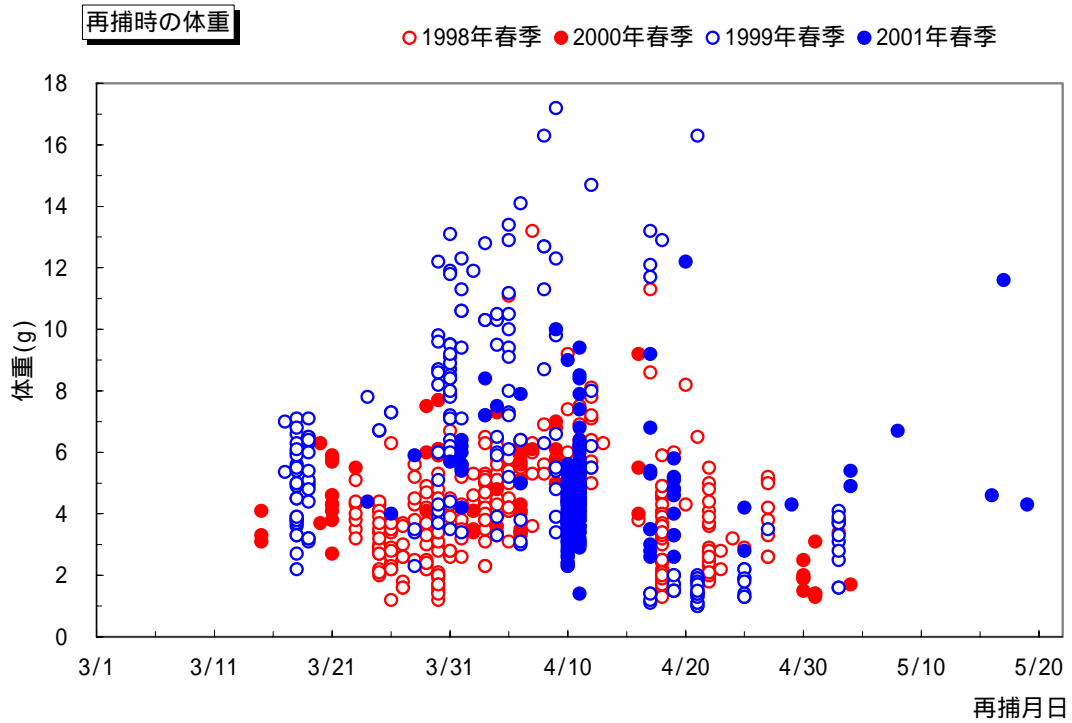


図-6-(1) 年度別・地域別の沿岸漁獲サケ平均重量

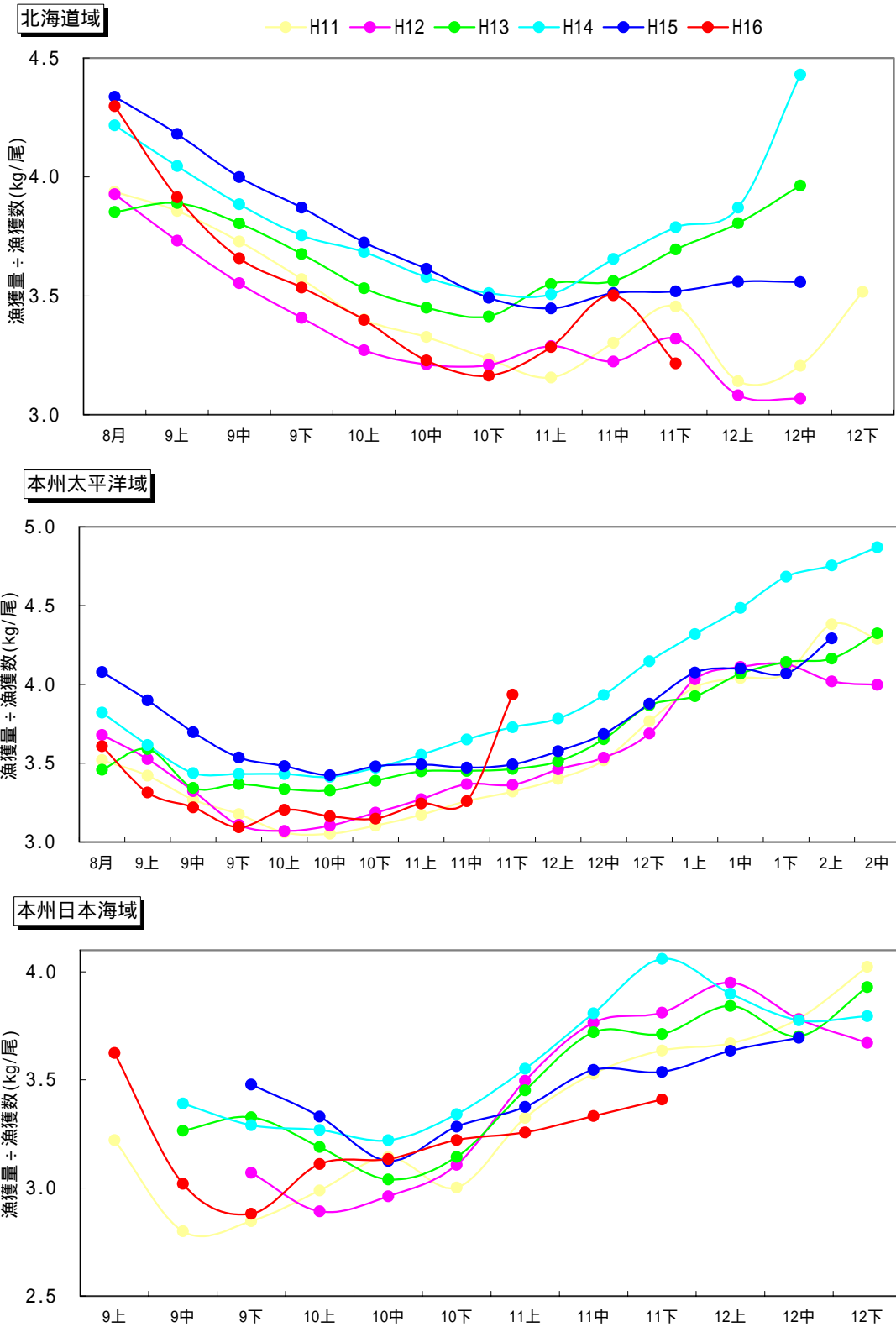


図-6-(2) 北海道域沿岸漁獲サケの 別・年齢別体サイズ

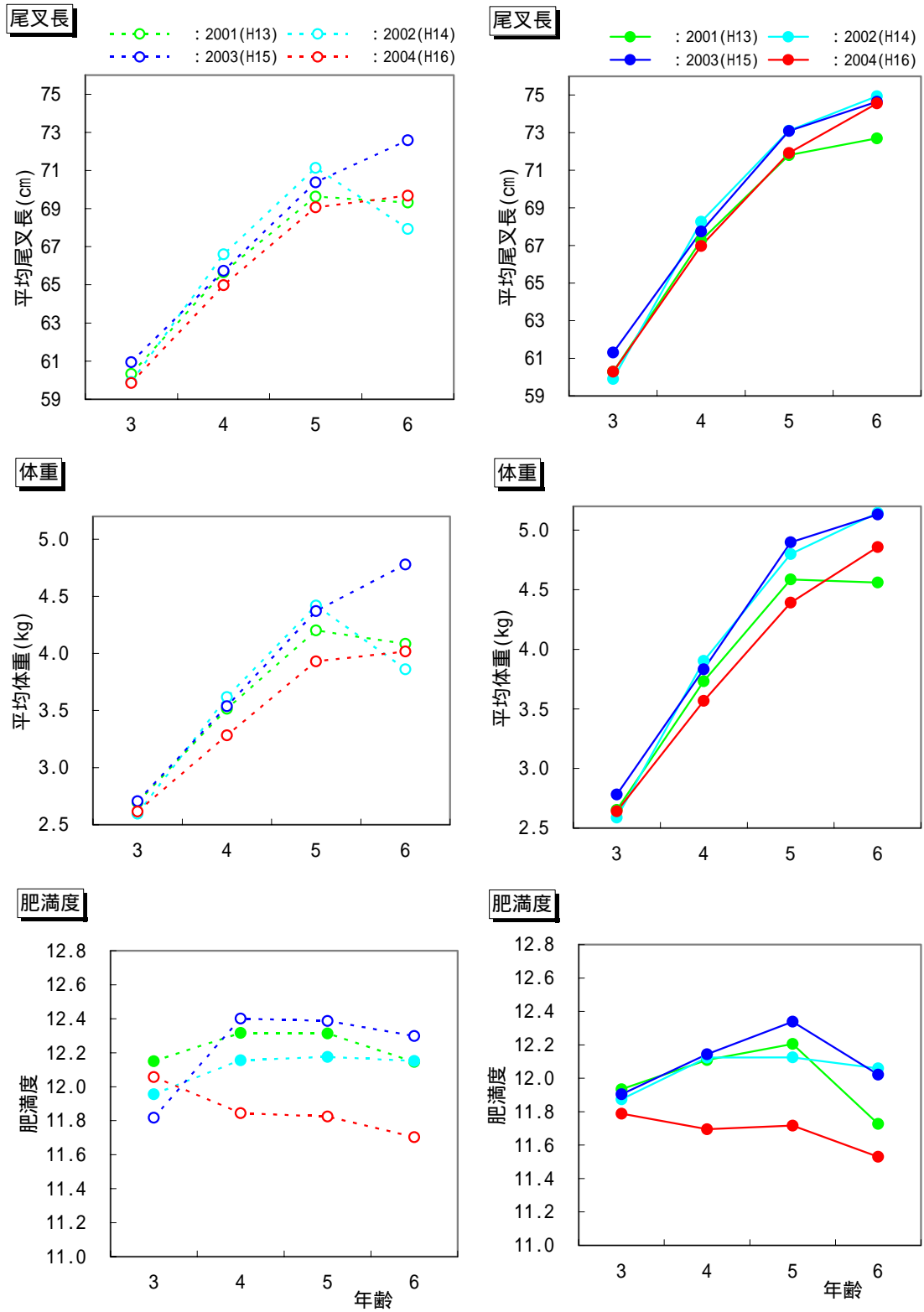


図-6-(3) 北海道域沿岸漁獲サケの年齢別・成熟度別体サイズ

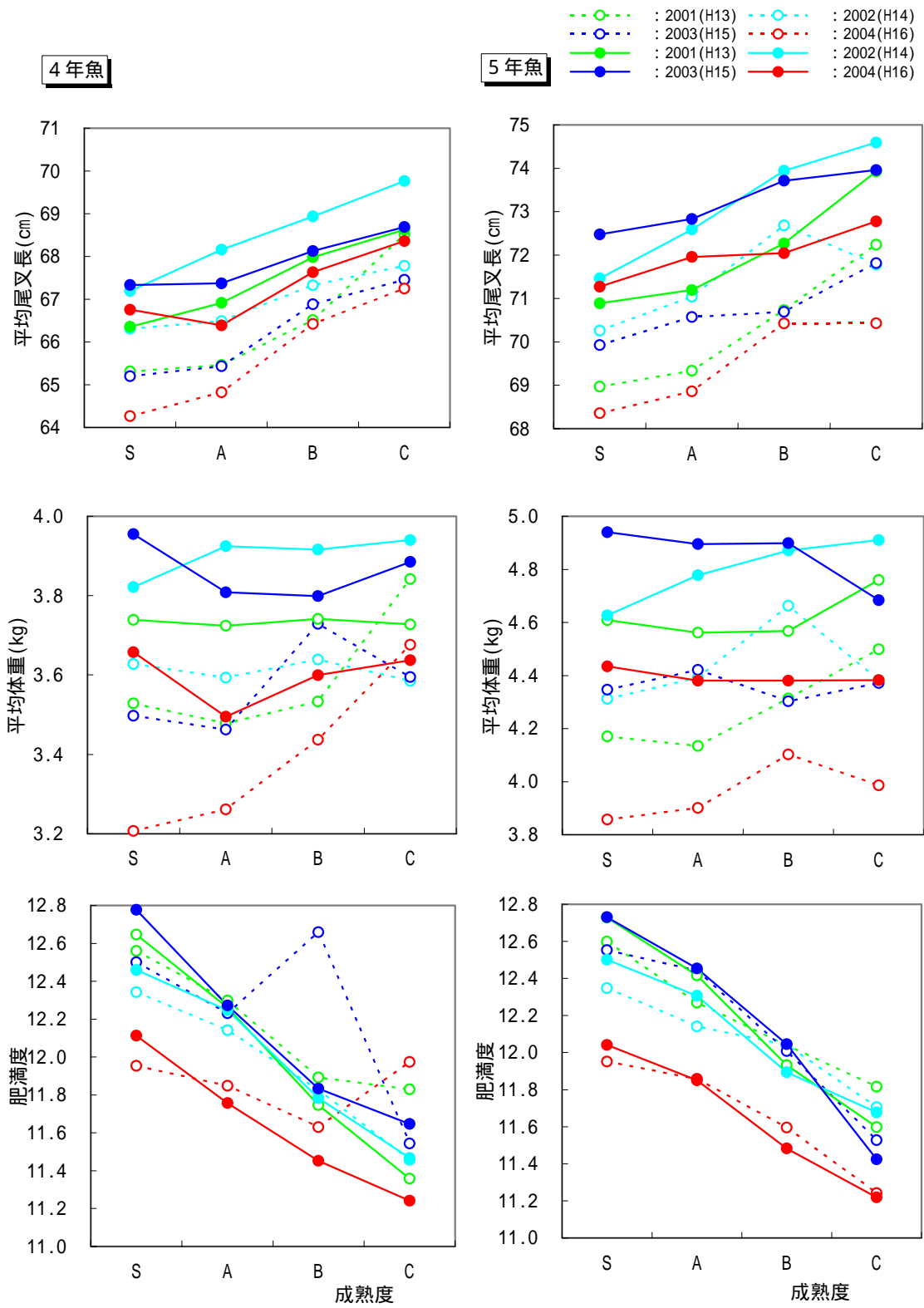


図-7-(1) 北海道域の河川で捕獲されたサケ 4年魚の体サイズ

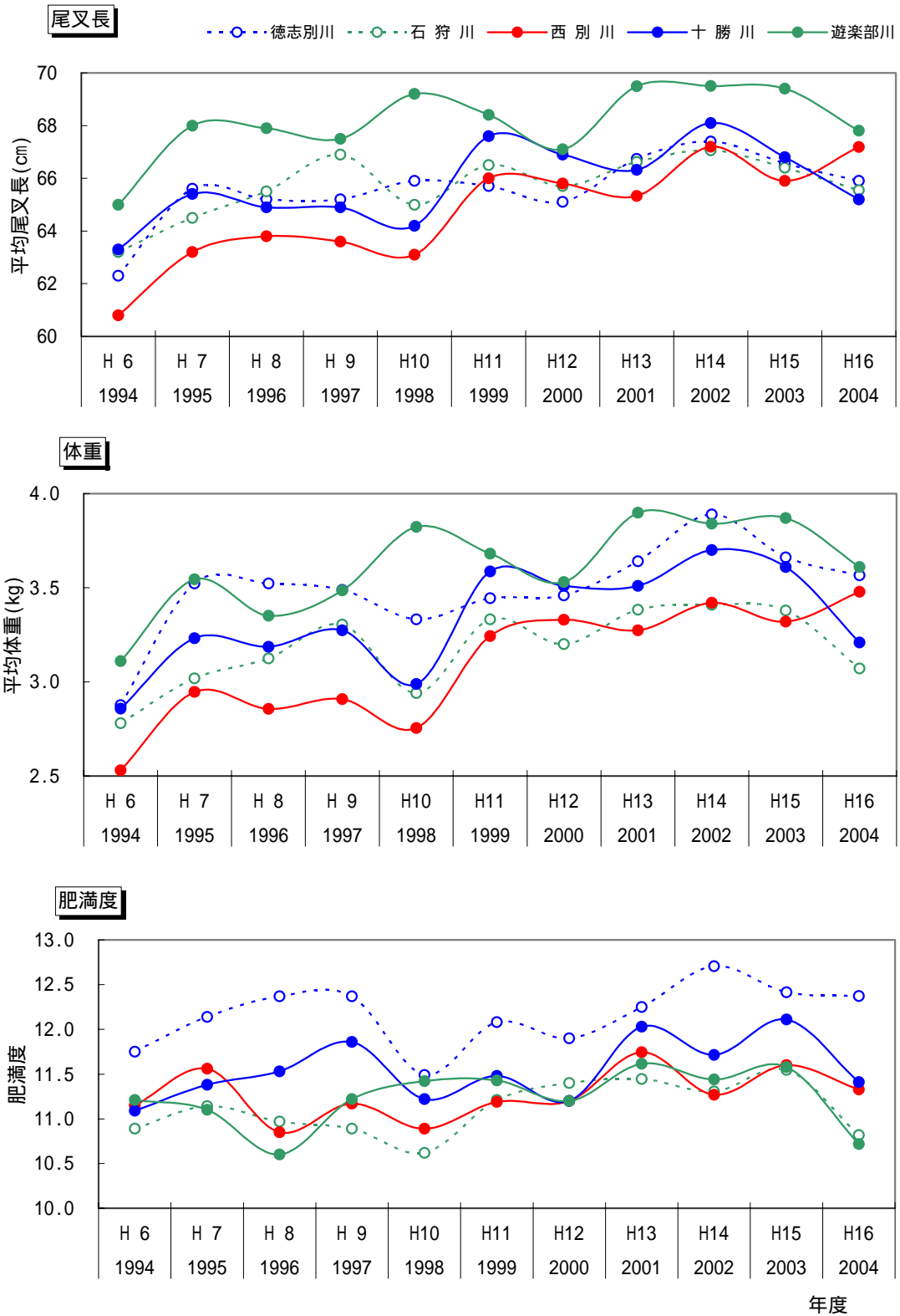


図-7-(2) 本州太平洋域の河川で捕獲されたサケ 4年魚の体サイズ

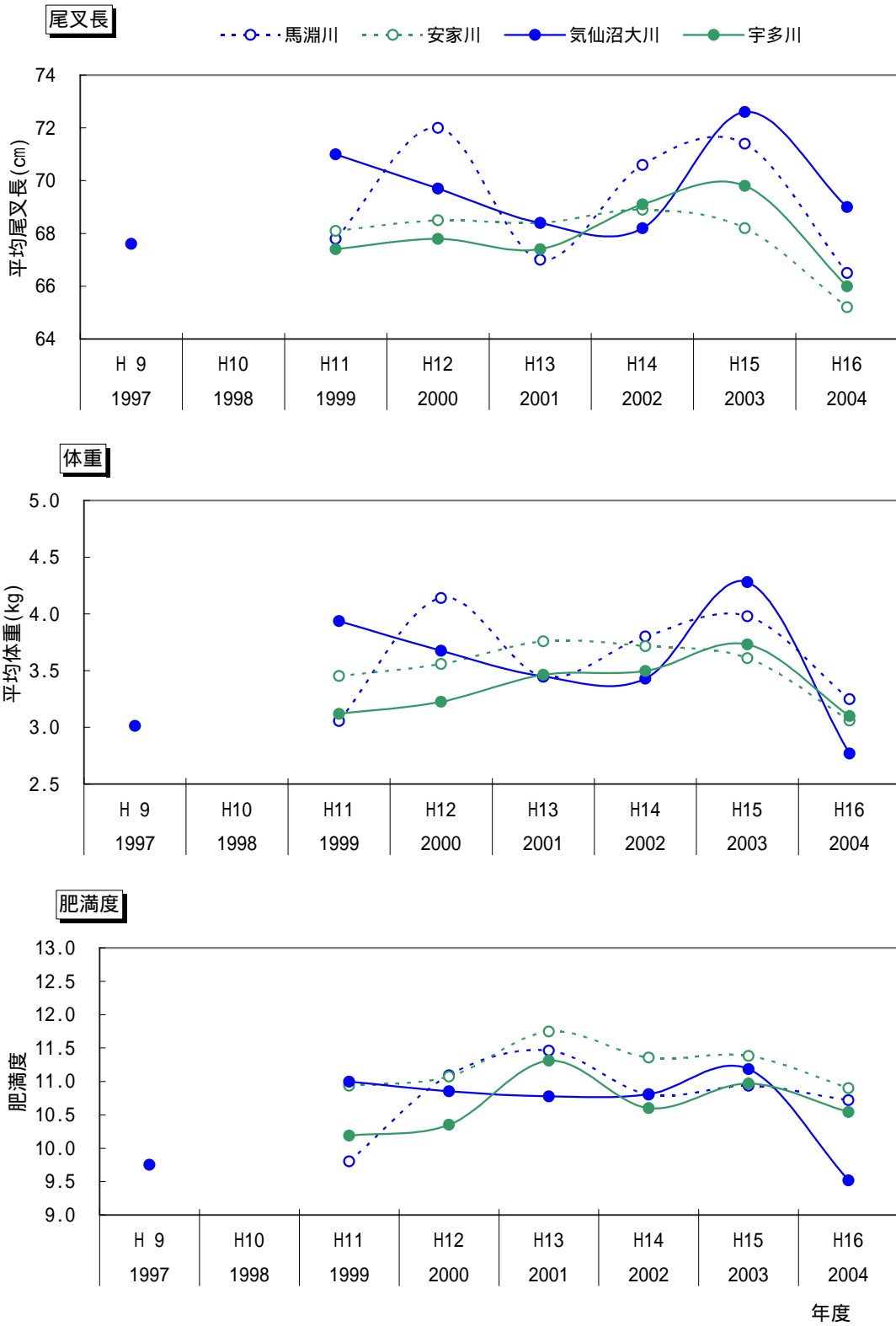


図-7-(3) 本州日本海域の河川で捕獲されたサケ 4年魚の体サイズ

